平成29年度　大田区立糀谷中学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

○おおた教育振興プラン2014に基づく教育実践を着実に進めるとともに、大田区教育委員会の**教育研究推進校**・人権教育研究協力校として下記の取組の充実を目指している。
（体験的な活動を通して自己肯定感や自尊感情を高める・「いじめ防止の取組」「ボランティア活動」「ユニセフ募金活動」「人権標語や人権作文コンクールへの参加」「留学生から学ぶ取組」「夜間学級の生徒の生き方に触れる機会の設定」など）
○地域行事へのボランティア活動として、和太鼓部や吹奏楽部や軽音楽部が積極的に参加している。
○学校支援地域本部を活用し、授業におけるゲストティーチャーの招聘や、地域の方と共に防災活動拠点訓練などを実施している。
○習熟度に応じた学習指導の推進（数・英：習熟度別少人数指導・基礎学力の定着のため学習指導講師の活用）
○小中一貫教育の推進（学習面や生活指導面における共通目標とその実践・学習指導の工夫・体力向上の取組）

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 数学到達度をステップ学習チェックシートで生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による数学・英語の補習を実施する。 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 「ねらい」と「まとめ」を明確にした授業を実践する。また、授業の中で、自己肯定感を高める指導を行う。	4：学校生活アンケート ・「授業が分かりやすい」 ・「年度当初と比較し学習への積極性が向上した」　と回答した生徒・保護者の割合が90%以上 3：学校生活アンケート ・「授業が分かりやすい」 ・「年度当初と比較し学習への積極性が向上した」　と回答した生徒・保護者の割合が80%以上 2：学校生活アンケート ・「授業が分かりやすい」 ・「年度当初と比較し学習への積極性が向上した」　と回答した生徒・保護者の割合が70%以上 1：学校生活アンケート ・「授業が分かりやすい」 ・「年度当初と比較し学習への積極性が向上した」　と回答した生徒・保護者の割合が70%未満	4	・「授業が分かりやすい」と回答した生徒は90%、保護者は79%であった。補習などを効果的に実施し、CD評価を減らしていく。 ・「年度当初と比較し学習への積極性が向上した」と回答した生徒は89%、保護者は71%であった。 ・夏休みの教育相談や、2学期末の三者面談などを通して、学習面のアドバイスを個別に行った。学習の動機づけになったことと思われる。 ・数学・英語の学習指導講師を活用し、放課後補習を実施した。教員の働きかけにより、昨年度より多くの生徒が参加した。学習指導講師からは、「やる気がある生徒が多いですね」という発言をいただいているが、学習の定着が今一歩である。家庭学習を充実させていく必要がある。 ・「ねらい」「まとめ」を明確にした授業は定着している。今後も授業において自己肯定感を高める取組を継続していく。	・子どもたちが楽しく学習ができ、意欲を持って取り組める授業が「分かりやすい授業」につながると思う。そのような授業実践をお願いします。 ・「年度当初と比較し学習への積極性が向上した」という質問に対し、教師、保護者、生徒の結果にギャップがあるのが気になりました。（教師と保護者はやや厳しめの評価に対し、生徒の9割が向上したと回答している） ・ステップ学習チェックシートの活用も含め、学習に対する取組を保護者と連携しながら進めてください。
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる生徒に関するケース会議等を実施する。 教育研究推進校として、自己肯定感や自尊感情を高める指導を推進する。	4：学校生活アンケート ・「学校の規則や規律を守っている」 ・「楽しく学校生活を送っている」と回答した生徒・保護者の割合が　90%以上 ○不登校生徒出現率3%未満 3：学校生活アンケート ・「学校の規則や規律を守っている」 ・「楽しく学校生活を送っている」と回答した生徒・保護者の割合が　80%以上 ○不登校生徒出現率3～3.5% 2：学校生活アンケート ・「学校の規則や規律を守っている」 ・「楽しく学校生活を送っている」と回答した生徒・保護者の割合が　70%以上 ○不登校生徒出現率3.5～4% 1：学校生活アンケート ・「学校の規則や規律を守っている」 ・「楽しく学校生活を送っている」と回答した生徒・保護者の割合が　70%未満 ○不登校生徒出現率4%以上	3	・「学校の規則や規律を守っている」と回答した生徒は94%、保護者は97%であった。取組を継続していく。 ・「楽しく学校生活を送っている」と回答した生徒、保護者は共に93%前後であった。 ・不登校出現率は3%未満には至っていない。適応指導教室などには通っているため、より一層連携を深めつつ学校復帰を目指していく。 ・いじめに関しては、引き続き未然防止や早期発見・早期対応に努めていく。スクールカウンセラーや関係諸機関との連携も視野に入れながら取り組んでいく。また、1年生で行っている「いじめ防止プログラム」を来年度も実施していく予定である。 ・教育研究推進校として取り組んだ成果を、今後の学校生活に生かせるよう校内体制を整えていく。	・生徒の評価結果が高いことからも分かるように、学校全体が落ち着いた雰囲気になっています。今後も継続させてほしい。 ・新入生が多くなりそうなので、小学校との連携をより一層強くしていってください。 ・あいさつなども大きな声でよくしてくれます。職場体験に来た生徒は、あいさつとともに作業も真面目に取り組んでいました。 ・校外で気になる生徒がいましたら直ぐに連絡します。 ・様々な事情があるとは思いますが、不登校生徒出現率の低下を願っています。
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：学校生活アンケート ・「健康や安全に気を配って生活している」 ・「部活動に積極的に参加している」と回答した生徒の割合が90%以上 3：学校生活アンケート ・「健康や安全に気を配って生活している」 ・「部活動に積極的に参加している」と回答した生徒の割合が80%以上 2：学校生活アンケート ・「健康や安全に気を配って生活している」 ・「部活動に積極的に参加している」と回答した生徒の割合が70%以上 1：学校生活アンケート ・「健康や安全に気を配って生活している」 ・「部活動に積極的に参加している」と回答した生徒の割合が70%未満	3	・「健康や安全に気を配って生活している」と回答した生徒は、89%であった。また、「部活動に積極的に参加している」と回答した生徒は、89%であった。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」については、学校としても家庭への協力を引き続き呼びかけていく。 ・体力向上については小中で連携し、取り組みの成果が見えてきている状況である。今後も、意図的・計画的に取り組み体力の向上を目指していく。	・「健康や安全に気を配って生活している」という質問に対し、生徒と教師との評価の差が大きいことが気になります。（教師のA評価26%に対して、生徒のA評価は60%。AとB評価を合わせると大差はないのですが） ・「早寝・早起き・朝ごはん」は、引き続き家庭への啓発を図ってください。
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：学校生活アンケート ・「学習に集中して取り組める」 ・「学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している」と回答した生徒・保護者の割合が　90%以上 3：学校生活アンケート ・「学習に集中して取り組める」 ・「学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している」と回答した生徒・保護者の割合が　80%以上 2：学校生活アンケート ・「学習に集中して取り組める」 ・「学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している」と回答した生徒・保護者の割合が　70%以上 1：学校生活アンケート ・「学習に集中して取り組める」 ・「学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している」と回答した生徒・保護者の割合が　70%未満	3	・「学習に集中して取り組める」と回答した生徒は88%、保護者は81%であった。残り12%の生徒への対応を検討する必要がある。また、「学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している」と回答した生徒は93%、保護者は81%であった。 ・ICT機器の活用については、授業の中で自己肯定感を高めるための一助として、活用することを共通理解し研究を進めた。そのことにより、ほとんどの教員がICT機器を使った研究授業を実践するとともに、活用率が大幅に向上した。今後は、効果的な活用法や興味関心を引き出す使い方なども検討し、分かる授業につなげていく。 ・副籍交流の生徒は現在1名である。間接交流ではあるが、交流の仕方については、効果的な方法を模索していく。	・ICT機器などを活用し、効果的な授業となるよう頑張ってください。 ・授業もいろいろと変化をつけて、興味の持てる授業にしていってください。 ・「学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している」という質問に対し、保護者だけCD評価が少し多いのが気になりました。
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 1年生が参加する「防災活動拠点訓練」や、祭礼/パトロール・PTA活動・地域行事への引率などを通して、地域との連携を深めている。	4：学校生活アンケート ①「学校の様子をHPや配布文書で知ることができる」 ②「生徒は地域の活動に関心があり、参加しようと思う」と回答した①「保護者の割合が90%以上 ②生徒の割合が80%以上 3：学校生活アンケート ①「学校の様子をHPや配布文書で知ることができる」 ②「生徒は地域の活動に関心があり、参加しようと思う」と回答した①「保護者の割合が80%以上 ②生徒の割合が70%以上 2：学校生活アンケート ①「学校の様子をHPや配布文書で知ることができる」 ②「生徒は地域の活動に関心があり、参加しようと思う」と回答した①「保護者の割合が70%以上 ②生徒の割合が60%以上 1：学校生活アンケート ①「学校の様子をHPや配布文書で知ることができる」 ②「生徒は地域の活動に関心があり、参加しようと思う」と回答した①「保護者の割合が70%未満 ②生徒の割合が60%未満	3	・「学校の様子をHPや配布文書で知ることができる」と回答した保護者は、87%であった。今後も定期的な学校便りや学年便りなど、内容を充実させ発行していく。なお、HPについては更新の頻度を上げるよう努めていく。 ・「生徒は地域の活動に関心があり、参加しようと思う」と回答した生徒は、58%であった。部活動との兼ね合いもあるが、地域行事に目を向けさせ、時間を作り参加するようさまざまな場面で促していく。 ・防災活動拠点訓練は、1年生にとって防災意識が確実に高まり、地域の方々を知る機会にもなるので、今後も継続していく。	・配布文書で学校の様子が発信されていて良いと思います。 ・防災活動拠点訓練は、防災意識を高めるだけでなく、地域との結びつきにも役立っている。 ・「子どもは、地域の活動に関心があり参加しようとしている」の質問に対して、C評価の割合が他の質問と比べて多いのが気になります。ぜひ、地域の活動に生徒が関心を持つよう取り組んでほしい。また、保護者の地域参加や協力もしていただきたいと思います。 ・学校の様子（落ち着いている状況）が、やっと地域に伝わったように思います。
夜間学級との連携	夜間学級の生徒から、生き方などを学ぶ機会をつくります。	夜間学級で働きながら学んでいる生徒の姿や話を聞くことで、昼間の生徒に「生き方を考える」など良い影響を与えている。	4：学校生活アンケート ・「夜間学級の生徒の話は、自分の生き方にとって参考になった」　と回答した生徒の割合が80%以上 3：学校生活アンケート ・「夜間学級の生徒の話は、自分の生き方にとって参考になった」　と回答した生徒の割合が70%以上 2：学校生活アンケート ・「夜間学級の生徒の話は、自分の生き方にとって参考になった」　と回答した生徒の割合が60%以上 1：学校生活アンケート ・「夜間学級の生徒の話は、自分の生き方にとって参考になった」　と回答した生徒の割合が60%未満	4	・1年生にとっては、夜間学級の状況や、夜間の生徒を知るきっかけになり、貴重な体験である。特に、外国籍の方や日本人の高齢者の話を聞くことで、自分自身の生活環境や歩んできた状況を考えさせるとともに、今後の自分自身の進路を考える際の一助となる機会と位置付けていく。今後も充実を図り実施していく。	・夜間学級の生徒との触れ合いは大事だと思います。ぜひ、今後も継続してください。 ・さらなる交流の機会を持つことを期待しています。 ・夜間の生徒や卒業式の様子から学ぶことが多くあります。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。